

行政調査報告書「建設常任委員会」

平成29年7月19日（水）～21日（金）

■東京都調布市『旧調布富士見町住宅地区 都市景観大賞について』



竣工後40年が経過したこの地区は、老朽化や公道による分断などの課題に対して、住民とワークショップにより解決を図った。「街路全体を園庭化し、建物との一体的風景をつくる」をテーマに建替えられ、平成28年度都市景観大賞を受賞した。

民間主導で進めたが、本市でも課題になる事項であり、官・民間・住民の連携は参考になった。

■宮城県牡鹿郡女川町『防災集団移転促進事業、被災市街地復興土地地区画整理事業について』

山を切り開き、盛り土にて3段階の高さを設け、住宅を高台に移し再建中で、早期に復興が進んでいる。

中心部地区を先行して土地地区画整理事業を行い、コンパクトなまちづくりをしている。観光・漁業関連産業も復興しつつあると感じた。



■宮城県東松島市『野蒜^{のびる}北部丘陵地区震災復興事業について』



UR都市機構と市民が連携し復興を進めている。震災前から市民協働のまちづくりを進めていたこともあり、集団移転先の検討も地域の意見を行政に伝える仕組みができていた。

移転先でも新たに振興会を作る地域の絆の仕組みづくりは参考になった。

■埼玉県越谷市『大袋駅舎建設事業について』

事業費の約20億円のうち8,500万円を鉄道会社が負担しており、国からの補助金は7億円である。駅にはエレベーターが2基、エスカレーターが2基、その他自由通路等があり、利用しやすい環境であった。地下通路も残っており、自転車の通行にも支障がない。

名鉄新安城駅は、橋上化で動き始めたが、将来的には高架化が理想であり、鉄道会社の意向も考慮しなければならないが、高齢社会の鉄道は大きな財産と考える。

